

# 11月新着図書

おひとり3冊まで、2週間（新着本は1週間）借りられます。



## 野庭すずかけコミュニティハウス

### 灯台からの響き

著者名：宮本輝

本の間から見つかった、亡き妻宛ての古いハガキ。妻の知られざる過去を追い、男は灯台を巡る旅に出る。人生の意味を知る傑作長編。地方紙連載、待望の書籍化！

### 風よあらしよ

著者名：村山由佳

服従するな。立ち上がれ。明治・大正を駆け抜けた、アナキストで婦人解放運動家の伊藤野枝。生涯で3人の男と結婚、7人の子を産み、関東大震災後に憲兵隊の甘粕正彦らの手により虐殺される——。その短くも熱情にあふれた人生が、野枝自身、そして2番目の夫でダダイストの辻潤、3番目の夫でかけがえのない同志・大杉栄、野枝を『青鞥』に招き入れた平塚らいてう、四角関係の果てに大杉を刺した神近市子らの眼差しを通して、鮮やかによみがえる。著者渾身の大作。



### 始まりの木

著者名：夏川草介

学問と旅をめぐる、奇蹟のファンタジー小説。生きること、学ぶことの意味を問う、新世紀の“遠野物語”。“これからは、民俗学の出番です”。神様を探す二人の旅が始まる。



### 武漢日記 封鎖下60日の魂の記録

著者名：方方／著 飯塚容／訳

新型コロナウイルス蔓延により、突如強行された1100万都市の封鎖。親しい人が次々と死んでいく……その渦中で女性作家が克明に記録し、全世界が注目した“真実”のドキュメント。忘れてはいけない、この悲しみの日々を——新型コロナウイルス蔓延による1100万都市の完全封鎖。その渦中で一人の女性作家が、実情を伝える日記を書き始めた——深夜12時の更新を1億を超える読者が心待ちにした。称賛と批判の嵐のなかで発信し続けた〈真実〉の記録。新型コロナウイルスの孤独な夜、1億人以上が心震わせた衝撃のドキュメント。

### 気がつけば、終着駅

著者名：佐藤愛子

離婚を推奨した1960年代、簡単に結婚し別れる2020年。世の中が変われば、考えも変わる。初エッセイから55年。佐藤愛子、これでおしまい。

### 隣はシリアルキラー

著者名：中山七里

すぐ隣の部屋で人体を解体しているなど、あり得るはずがない」連続バラバラ殺人事件の犯人は、隣人？怖すぎて眠れない。徹夜必至のホラーミステリ！神足（こうたけり）の悩みは、深夜になると隣室から聞こえてくる不気味な物音。何かを切断しているような……もしかして死体？時を同じくして、近隣で女性と思われる死体の一部が発見されたという事件を知った神足は、隣人の徐（スー）が犯人なのではという疑いを持つ。そんなある日の深夜、隣室から何かを梱包するような音に続いて、徐が外出する音が聞こえた。気になった神足はそのあとをつけるが——。

### 炉辺の風おと

著者名：梨木香歩

炎に映る孤独はひたひたと一人を満たす。他の誰でもない、自分の生を生きていく。大転換の時一八ヶ岳の山小屋から“新しい日常”を探る地球視線エッセイ。



〇  
〇  
著者名：〇

